

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100266		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・西川津①		
所在地	〒690-0823 島根県松江市西川津町2663番地2		
自己評価作成日	令和5年11月13日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者に居心地の良い空間を提供できるように、常に利用者の心の声に耳を傾けるように努めている。家庭的な雰囲気の中で、利用者個々の自立度も高いこともあり、食事の準備を中心に洗濯物たたみや居室等の掃除、シーツ交換等、利用者が家族の一員としての役割や楽しみを持って生活できるように支援している。また、体力維持や健康のため、体操の時間も設けている。
 ②社会資源を活用するとともに、住み慣れた地域で馴染みの人達との交流をできるだけ大切にしながら、その関係作りにも取り組んでいる。
 ③環境が与えるストレスの軽減や気分転換のため、コロナ禍でその回数は減少しているがドライブ等、できる範囲で外出支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が事業所を家庭の延長で「我が家」と感じられる家庭的な雰囲気である様に、また、一人ひとりの残存能力を活かした役割を持って毎日が送れる様に支援している。「ゆっくりでも遅くなくても良いじゃないか」と人と人との関係を大切に利用者として接し、いつも「ありがとう」と言う言葉が聞こえてくる事業所であるように利用者のさり気無い一言に耳を傾け向き合っている。行事を通してクリスマス会や事業所前の畑で出来た薩摩芋を収穫し焼き芋会を楽しむ等季節を感じながら日々を過ごしている。職員も内部、外部研修や勉強会で多くの学びを得ながら成長に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の常時目にする場所に理念を掲示し、職員間で共有し、理念に基づき、利用者がその人らしく過ごせるように努めている。	これまでの生活を大切に、家庭にいる様な感じで生活出来る様に情報を共有し理念を活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は隣接する児童施設の数人の子供達から窓越しによる季節のプレゼントの受け渡しや、そのお返しとしてご利用者からでもできる範囲でお返しを作って渡す等のやりとりをしていたが、今年度は感染状況の悪化もあり実施していない。	町内会に入会して清掃活動に参加し民生委員とも日常的に交流している。大雪の時は除雪車を借りる等、地域との繋がりが公民館行事やボランティアの来訪希望もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内部・外部研修(ZOOM)内容を基に、認知症の理解や支援の方法を実践内容と共に運営推進会議にて事例報告し、意見を伺うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて運営推進会議の開催が困難のため、ホームの現状報告を文書でのやりとりが大半ではあったが、5月以降はホーム開催に戻し引き続き意見を収集しサービス向上や現場のケアに活かしている。	家族も含めた一般市民と高齢者施設との間にコロナに関する考え方の違いがあり他事業所の様子等参考にしながら相談したり、連絡を取り合ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍にて運営推進会議の開催が困難のため、取り組み状況や、ヒヤリハット・事故報告内容等のホームの現状を文書または電話でのやりとりが大半ではあったが、5月以降はホーム開催に戻し引き続き意見交換や助言をいただいている。	日頃から利用者の様子や事業所内の状況を知らせている。キーパーソンとの連絡がとれなかった時等相談、助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎の身体拘束適正化委員会(身体拘束防止研修・事例検討会)を設けており、職員間での理解を深めている。出入口は常に開放しており、見守りと寄り添うケアを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃から日々のケアの振り返りをし気になる言葉を聞いた時はお互い注意し合っって身体拘束をしないケアについて理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修の開催、ZOOMでの外部や会社主催の研修への参加等職員間で学ぶ機会を持ち、他にも業務における自己の振り返りや職員がストレスをため込まないよう日々のミーティングや職員会議等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍にて外部研修はほとんどないが、参加した場合は参加職員による伝達研修をしている。また実際にご利用者の成年後見人より話を伺い、その話に基づいて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、締結、解約、改定等が必要な時は、契約書に基づき、丁寧な説明を行い、理解、納得の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で制限はあるものが状況を見ながら一定の条件のもとに面会を開始し、その際に意見・要望等を伺い、ご家族とコミュニケーションを図りながら実施している。	電話や月1回の「ひなたぼっこ」便りを家族に郵送し利用者の様子を知らせ喜ばれている。家族から出来る事があれば「何でも手伝います」等の言葉を貰っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや連絡ノート、職員会議や個人面談等で話し合う場を設けている。	管理者は職員が安心して気持ち良く働けるように気を配っている。職員の要望、意見を聞き出来る事から取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って健康に働けるように、資格取得の支援や、残業にならないような定時終業の促し、休憩時間の確保、負担軽減のための定期定業務の見直し、また職員間で意見が言い合える環境作りにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の基礎知識向上のためにZOOMでの外部研修や外部講師による社内研修に参加し、その研修内容を職員会議等で情報共有し、知識、意欲、技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のためその機会がほぼ無かったが、5月以降徐々に増えているので、引き続きその情報収集を行い、機会があれば参加する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問面談にて、現状における生活状況の把握と入居時のご本人の不安が少しでも軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて、悩みや不安を抱えているご家族を理解し、最適な支援が提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の相談に応じ、最適なサービスを受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者おひとりお一人の性格を把握し、尊敬の気持ちと共に培ってきた経験や知識を生活の中で活かしていただけるよう支援することを指導し、職員会議等で事例をあげながら繰り返し伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で行事への参加や通常面会が困難であるため、毎月のお便りやご家族への電話連絡時、また年末にはご利用者に年賀状を書いていただき状況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でできない状況が続いている。	新型コロナウイルス感染症が5類に変更になった為面会も時短で行っており移動美容院の散髪や親戚、家族の面会がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報を共有し、定期的な席替えの実施等、ご利用者同士の関係性をしっかり把握し、支え合えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、ご家族の相談支援を行っている。また死亡退去等で心の整理がなかなかつかないご家族に対して、想い出話をしながらその想いの受容と共感に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の様子や行動、会話の中から本人の意向や希望をくみとりながら職員間で情報の共有を図り、検討の場を設けている。	利用者に自然に寄り合い「いつもありがとう」の言葉を貰い、表情や言動からも思いを汲み取る様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしや生活環境、以前のサービス利用の内容、経過について、ご本人、ご家族より丁寧に話を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方や体力、能力を観察しながら、していただける作業や役割を考え、ミーティングやカンファレンス等にて職員間の情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録や、本人、家族、医療関係者との話を基に、カンファレンスを行い、ご本人の現状に適したプランの作成に努めている。	利用者、家族の要望、意見も含め利用者の好きな事、やりたい事も取り入れた介護計画書を作成している。利用者の状況に応じて都度プランの見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や行っているケアの実践及びその結果、その中で新たに気づいた事や工夫したことを個別にケアプラン内容に沿って、アセスメントしその後のケアに生かすことを指導しながら今後のより良い介護実践、介護計画に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のその時々状況に応じて、さまざまなニーズに細やかに対応し、柔軟な支援やサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であることや、認知症の進行でかかりつけの病院受診や行きつけの美容院、知人の面会等の馴染みの関係性を築いていただくことが難しくなってきたが、入居契約時に家族へお聞きし、意向を伺っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を希望される方は、家族の協力のもとで受診される。その他の方は、契約医の往診で対応している。また、必要に応じ歯科医院等受診支援を行っている。	今迄のかかりつけ医を継続している利用者もいる。必要に応じて専門医の受診や緊急時の対応もかかりつけ医の指示を受け適切な医療が受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師により、健康管理や処置等、医療面での相談、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約医をはじめとした医療機関との情報交換、相談に努めており、入退院時も安心してすぐに対応できるような関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居時に説明をし、契約病院の協力体制について話し合いを行っている。状況に応じて主治医、家族の話し合いの場をもてるよう支援をしているが、看取り支援は現在のところは行っていない。	事業所が出来る事を十分に説明し状況変化に応じて話し合い意志を確認している。家族、利用者から「住み慣れた事業所で最後まで過ごさせてほしい」との要望で②では看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍の状況を見ながら、年2回の消防署や応急手当普及員による応急手当講習及び年1回の事故防止対策・急変時対応の内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍状況を見ながら、消防署指導による両ユニット合同の消防訓練および災害避難訓練を年1回、各ユニットでも年1回、利用者を含め、避難訓練を行っている。	両ユニット合同で利用者も参加して避難訓練を行っている。事業所が浸水想定区域内でもあり、消防署から状況に応じて「事業所内に留まっていた方が良い」との助言も貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人おひとりの性格や嗜好を把握し、人格を尊重しながらの声掛け、対応支援を行っている。また職員会議の都度、職員へその大切さについて話をしている。	人生の先輩として敬い利用者から学び利用者に合わせた対応をする様に心掛けている。転倒した利用者を見守る為居室のドアを開けている時は長い暖簾を掛ける等してプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご自分の思いを口にしやすいような関係性と雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活ペースの尊重と把握をし、その時々に応じた支援実施に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離室時や認知症進行により失われる身だしなみに日々留意しながら、希望に応じた散髪支援や美容物品や衣類の購入管理支援を実施している。日中に化粧をされている方は就前時化粧落としを声かけし、一部介助で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で買い物外出が困難ではあるが、米とぎやゴマすり、盛り付け等の調理補助や配膳、食器拭き等をしていただいている。また、誕生日には対象利用者様の好物をできるだけ提供しお祝いしている。	季節を感じ旬の食材を使用した献立を工夫して各ユニットで食事作りをしている。誕生日、敬老会等の行事の時は希望のお寿司や好物御膳を提供し職員と一緒に同じテーブルを囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの食事を把握してその方に合わせた食事量・食事形態で提供している。水分量は食事・お茶時に声かけを行い、嗜好品を織り交ぜながら必要な水分量が摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎に配慮しながら、自立している方は見守りと声かけで対応し、必要に応じた支援を行っている。また昼食前には嚥下体操を実施し、朝食・夕食前には発語を促すような支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに十分配慮した上で、お一人おひとりの排泄パターンの把握と、自立に向けた個別支援を心掛けている。	布パンツ、紙パンツ、パット等身体機能に応じた使い分けをして利用者が不快にならない様にし、トイレで排泄出来る様に支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる範囲で排便状況を確認しながら、通常水分とは別に就寝前と起床時に水分提供をしたり、運動の促し等、お一人おひとりの排泄状況に応じた働きかけを行い、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や状況に応じて、できる限り本人の希望に沿った支援をしている。また使用する洗浄剤も高齢者のスキントラブルに配慮した皮膚に優しいタイプのものを使用し、入浴後には保湿剤の塗布を実施している。	同性介助の希望や嫌がる利用者は足湯をする等柔軟に対応し入浴後の肌ケアにも気をつけている。職員と二人になった時普段聞けなかった家族との関係を話す利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や体調に配慮し、お一人おひとりにあった休息ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量について理解し、服薬後の状態の観察、変化があれば主治医や看護師に相談報告している。また看護師と相談しながら下剤調整を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴を把握し、日々の生活や活動から、ご本人の役割を見つけ、笑顔多くやりがいのある生活や自立に向けた生活が送れるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であるため、ご本人のご希望に沿う外出支援は困難な状況であるが、季節感を感じていただくためにドライブや近隣散歩等できる範囲で実施している。	事業所の周りを散歩したり近くの公園、川土手の花見、神社等人ごみは避けながら外気に触れたり季節を感じたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで立替え購入しているが、お金を持つことで安心される方の場合、ご家族に紛失の可能性をお話し、家族同意のもとに所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望に応じて親族へ手紙を送っている。他にも年始には本人直筆の年賀状をお送りしている。またご家族から荷物が届いたり、電話があった際には本人に繋いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員で月担当を決め、その担当を中心にホール、廊下等に季節を感じられるようになり飾りつけをしている。 またその日の温度、湿度をなるべく一定に保てるよう調整している。	季節の花を飾ったり、壁には作品、行事の写真でその時を思い出している。調理の音を聞き盛り付けする場面も見え生活感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に置いてあるソファやテラスで天気の良い日には、ひなたぼっこをしたり、談笑したりと自由に過ごされている。また気の合う利用者同士で居室の往来をされ、笑い声が聞こえ楽しい時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具やテレビ、家族の写真等持ち込みができることを話し、安心して施設生活を送れるような環境作りを心掛けている。またアルバムの持ち込みもあり、思い出話を聴かせていただくことも多い。	利用者が以前使っていた物を持ち込み、今迄住んで居た延長である様に思えるような居室にしている。趣味の絵画道具を置き利用者が書いた絵を飾ったり置いたりしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室内の手すりの設置や、利用者様が認識しやすいよう居室入り口に表札や写真、その居室の利用者自身が作った飾りを付ける等、安心安全に移動できるよう工夫している。		